子どもたちの目の輝きをめざします

ハイライト：

・どんなときに、目は輝きますか?

・子どもの目が輝く学習をめざしています。

・算数・国語では、次のような目の輝きをめざします。

・道徳・生活単元では、次のような目の輝きをめざします。

・子どもの目が輝く姿は、自尊感情の高まりです。

どんなときに、目は輝きますか?

私達久山町の教職員は、久山町の子どもたちのよりよい成長をめざして、日々研修を重ねてきています。

それぞれの学校・園で行われている研修会において、次のような問いを投げかけられたら、どのように答えられますか?

「このような授業研修会で、先生方の目が輝く時はどんな時ですか。」

久原小学校の研修会では、「明日にでも使えるものを学んだ時」「新しいものを学んだ時」「自分の課題が解決した時」等、様々なものが出されました。

研修会の中で、新たな発見や価値を見い出したり、自分の指導に役に立つことを得たりした時、私達教師の目は輝いているはずです。また、その時の教師の目の輝きの大きさは、研修にどれだけ本気になって取り組んでいるかどれだけ切実感をもって取り組んでいるかによって変わってきます。

研究授業後、授業を行った職員が、講師の先生から個別に指導を受けている場に同席しました。その時の職員の目はまさに輝いていました。それは、授業づくりに本気で取り組んでいたからこその輝きであり、自分の課題が解決したからこその輝きだったのです。

このような「教師の目の輝きを生み出す研修」と久原小学校がめざしている「子どもの目が輝く学習」とは、実は同じものなのです。子どもの目が輝く姿を、自分の研修での経験と置き換えて考えていきましょう。

久原小学校の子どもたちの目は輝いているでしょうか?久山町全体の先生方で協議していくことで、私達も目を輝かせましょう

子どもの目が輝く学習をめざしています。

久原小学校の研究テーマは、次のように設定しています。

子どもの目が輝く学習の創造 ～聴き合い・語り合い活動を中心に～

では、子どもの目が輝く姿とは、具体的にどのような姿になるのでしょうか。

久原小学校がめざしている「子どもの目の輝き」は、単に子どもたちにとって楽しい学習活動を設定し、笑顔で目をキラキラさせていくことではありません。子どもたちが、学習に本気になり、切実感をもって学習に取り組んでいる時に生み出される学びの姿をめざしています。

例えば、算数の学習では、提示された問題に対して、「えっ、なぜ」「どうしてだろう」など、自分の知識とのズレや矛盾が生じた時、学習への意欲が高まっていきます。このような時、子どもたちの目は輝いていると捉えています。

また、交流活動を通して、「わかった。そういうことか。」「なるほど。」など、自分の考えと比較して学習内容についての理解を深めたり、価値を実感したりしている時にも、子どもたちの目は輝いていると捉えています。

このように、子どもの目の輝きとは、学習過程のすべての段階で生み出していくことができるのです。

算数・国語でめざす「目の輝き」とは

算数では、「思考力・表現力」の育成を中心に授業づくりをすすめています。めざす「目の輝き」は、次のような思いを表出する子どもの姿となります。

① 問題への意欲が高まっている姿
「えっ。なぜ？」
「よし、できそうだ！」
② 有用感・効力感を味わっている姿
「うん、すごく簡単！」
「あっ、わかりやすい！」
「おー、いつでも使える！」
③ 成就感・達成感を味わっている姿
「やった、できるようになったぞ！」
④ 新しい目標を感じている姿
「今度は、〇〇に挑戦だ！」

国語では、「読むこと」を中心に授業づくりをすすめています。めざす「目の輝き」は、次のような思いを表出する子どもの姿となります。

① 読みへの意欲が高まっている姿
「うわぁ、読んでみたい。」
「よし、こう読んでいこう。」
② 読みの深まりを味わっている姿
「なるほど、そういうことか！」
「へぇー、その読み方もあるんだ！」
③ 成就感・達成感を味わっている姿
「うん、しっかり読めてよかった。」
「やった、〇〇ができたぞ！」
④ 新しい目標を感じている姿
「よし、もっと読みたい！」

子どもの目が輝くと、自尊感情が高まります。

道徳・生活単元でめざす「目の輝き」とは

道徳の時間では、道徳的実践力の育成を中心に授業づくりをすすめています。めざす「目の輝き」は、次のような思いを表出する子どもの姿となります。

① 課題への意欲が高まっている姿
「あーっ、そういうことある！」
「あれっ、もっとよくなれるかな！」
② 考えの深まりを味わっている姿
「へぇー、そういうこともあるな！」
「あっ、そこは気づかなかった！」
③ 新しい価値を感じている姿
「ほぉー、そういうことか！」
「なるほど、そうだったのか！」
④ 自分のよさを感じている姿
「はあぁ、こんなよさもあったんだ」

生活単元では、「人とのかかわり」を中心に授業づくりをすすめています。めざす「目の輝き」は、次のような思いを表出する子どもの姿となります。

① 活動への意欲が高まっている姿
「うわぁ、やってみたい。」
「よし、できそうだ。」
② 有用感・効力感を味わっている姿
「わかった、そういうことか！」
「やってみよう、できそうだ！」
③ 成就感・達成感を味わっている姿
「今日は、〇〇がうまくできたぞ！」
「やった、できるようになったぞ！」
④ 新しい目標を感じている姿
「よし、次もがんばろう！」

子どもの目が輝く姿は、自尊感情が高まっている姿です。

このように、教科や領域の特性により、子どもの目が輝く姿の捉え方は異なります。しかし、どの学習においても、子どもたちは、学習活動に本気になり、切実感をもって取り組んでいます。そして、その成果として、達成感を感じることができているのです。

このような学習を通して、成就感・達成感を味わわせることは、人権教育をすすめていく上で大切なことである自尊感情を高めていくことにつながっていくのです。

1時間の学習の中で、子どもたちは、様々な「目の輝き」を表出していきます。その姿を発言やつぶやきだけでなく、細かな様相まで見取っていきましょう。

また、その「目の輝き」が生み出された要因（手だて）は、何なのか分析し、評価していくことも大切です。